

# 地球環境と産業化研究会（SGEIS）

## 2023 特別セミナー実施報告書

### 概 要

テーマ：ドイツにおける最新エネルギー事情について

講演者：株式会社エヌ・アール・ダブリュー・ジャパン(NRW.Global Business Japan/ドイツ NRW 州貿易投資振興公社) マネージャー、ビジネスデベロップメント&リサーチ（西日本担当） 楠木青陽 氏

内 容：ロシアにおけるウクライナ侵攻から二年目に突入し、未だ解決の目途も立たない昨今、世界的なエネルギー高騰のみならず食料品等の一般消費にも影響が出ている状況です。そこで、4月15日原子力発電所3基を停止したドイツを中心に、水素及び再生可能エネルギーの状況等の最新エネルギー事情について、NRW.Global Business Japanに特別にご講演をお願いし、この度解りやすくお話いただけることになりました。

この機会に、ドイツの具体的な取組み事例を参考に、地域におけるエネルギーのあり方について、一般市民として何ができるかを皆さんと共に考えます。

日 時：2023年9月14日(木)13時30分～15時(13時20分開場)

13:30～13:35 主催者挨拶・進行について

13:35～14:25 特別講演

14:25～14:55 質疑応答

14:55～15:00 事務局連絡・終了

場 所：オンライン形式（Zoom ミーティングプロ）

参加者：16名、うち学生5名（19名、うち学生5名）（ ）の数字は参加申込者数

主 催：地球環境と産業化研究会

### 配布物

- 楠木青陽、『ドイツにおける最新エネルギー事情について』（講演スライド）
- アンケート

### 内 容

- 主な内容は次の5項目で、質疑で8名からの発言があった。再生可能エネルギー施設の追加が停滞している現状やその打開策、原発の全廃をめぐる国民の間で意見が割れていること、水素需要（利用領域）やグリーン水素の製造と輸送について議論された。
  - ✓ ルートライン・ヴェストファーレン（NRW）州：欧州の中心に位置すること、ドイツ最大の人口を誇りドイツ経済の中核であること

- ✓ 欧州・ドイツが直面する課題：気候変動（豪雨）、ウクライナ危機による影響、原子力発電所停止
- ✓ NRW 州のエネルギー事情：NRW 州のエネルギー供給会社による総発電量に占める再エネルギーの割合は 3%と低く、化石燃料が約 95%を占める（褐炭 58.1%、石炭 22.9%、天然ガス 13.8）が 79%
- ✓ 再生可能エネルギーの割合増加を加速：再生可能エネルギー法（EEG 2023）
- ✓ 「国家水素戦略」の取り組み/NRW 州水素ロードマップ：国内の水素市場と輸入の必要性、2040 年の欧州水素パイプライン網、水素の国内製造と輸入コスト比較（2045 年予想）

以上(世話人 土井淳 記)